

小学校第5学年 道徳科 学習構想案 (例)

日 時 令和〇年〇月〇日 (〇) 第〇校時
 場 所 〇年教室
 指導者 教諭 〇〇 〇〇

1 学習構想

主題名	謙虚な心で (内容項目B (11) 相互理解, 寛容)	
ねらいと教材	(1)ねらい 監督からきつく叱られた山下選手の立場に立ち、自分ならどうするか話し合うことを通して、自分を過信せず、謙虚な心を持ち、誰に対しても素直な広い心で接しようとする心情を育てる。 (2)教材名 人生の金メダル 出典「熊本之心 小学校5・6年 (熊本県教育委員会)」	
評価の視点	評価の視点1	評価の視点2
	山下選手と自分を重ね、監督から叱られたときの心情を、多面的・多角的に考えている。	自分を過信せず、謙虚な心をもつ大切さについて自分との関わりで考えている。
目指す児童の姿		
自分を過信せず、謙虚な心を持ち、誰に対しても素直な広い心で接しようとしている児童。		
主題に迫る学習課題 (本時)	本主題で働かせる見方・考え方	
203連勝した山下選手が大切にしていた心を考えよう。	山下選手が大切にしていた心について多面的・多角的に考えることを通して、謙虚で寛容な心をもつことの大切さについて理解し、今後の自己の生き方について考えを深めていくこと。	
内容項目相互の関連的・発展的な指導, 各教科等や体験活動等との関連的指導		
特別活動	道徳科	各教科
「係活動を工夫しよう」 ・よりよい係活動をするために友達の意見を取り入れる。 「運動会を成功させよう」 ・先生や友達の助言を聞き入れる。 「帰りの会」 ・謙虚な心で一日を振り返る。 「掃除 (縦割り班掃除)」 ・下級生のことを考えアドバイスする。	「ブランコ乗りとピエロ」 (出典: 新しい道徳5 東京書籍) B (11) 相互理解, 寛容 主題名 謙虚な心で 「人生の金メダル」(本時) B (11) 相互理解, 寛容 主題名 謙虚な心で 監督からきつく叱られた山下選手の立場に立ち、自分ならどうするか話し合うことを通して、自分を過信せず、謙虚な心を持ち、誰に対しても素直な広い心で接しようとする心情を育てる。	国語 「よりよい学校生活のために」 「あなたはどうか考える」 ・多様な意見を取り入れて考える。 体育 「ボール運動」 「陸上運動」 ・先生やチームメイトの助言を聞いて活動に生かす。

2 主題設定の理由

学習指導要領における該当箇所（ねらいや指導内容についての教師の捉え方）					
<p>本主題は、小学校第5学年及び第6学年内容項目B(11)「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること」を基にしたものである。</p> <p>相手の意見を素直に聞き、なぜそのような考え方をするのかを、相手の立場に立って考える態度を育てることが求められる。指導に当たっては、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重することで、違いを生かしたよりよいものが生まれるといったよさや、相手の過ちなどに対しても、自分にも同様のことがあることとして謙虚な心、広い心で受け止め、適切に対処できるように指導することが大切である。</p>					
本主題における系統					
<p>小学校第3学年及び第4学年 内容項目B(10)(相互理解, 寛容) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、相手のことを理解し、自分と異なる意見も大切にすること。</p> <p>教材名「かしたつもり×もらったつもり」 (出典: 新しいどうとく 3 東京書籍) 教材名「ちこく」 教材名「わたし、まちがってないよね」 (出典: 生きる力4 日本文教出版)</p>	<p>小学校第5学年及び第6学年 内容項目B(11)(相互理解, 寛容) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、謙虚な心を持ち、広い心で自分と異なる意見や立場を尊重すること。</p> <p>教材名「ブランコ乗りとピエロ」 (出典: 新しい道徳5 東京書籍) 教材名「人生の金メダル」 教材名「順子先生と少年」 (出典: 熊本の心 小学校5・6年)</p>	<p>中学校 内容項目B(9)(相互理解, 寛容) 自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。</p> <p>教材名「落語が教えてくれること」 (出典: 新しい道徳1 東京書籍) 教材名「遠足で学んだこと」 (出典: 新しい道徳2 東京書籍) 教材名「しあわせ」 (出典: 新しい道徳3 東京書籍)</p>			
児童の実態（児童の学習状況や実態と教師の願い）					
■主題に関する意識の状況		主題に関わる児童の実態（アンケート〇人調査）			
質問事項		ある◎	少し○	あまり△	ない×
① 注意されて素直に聞けなかったことはありますか。		人	人	人	人
② それはどうしてですか。 (聞いた理由, 聞けなかった理由)		(聞けた) (聞けなかった)			
■考察		項目のみ記載しています			
教材の価値（使用する教材の特質や具体的な活用方法）					
<p>教材「人生の金メダル」は、ロサンゼルスオリンピックの柔道無差別級で、足を負傷しながらも金メダルをとった山下泰裕選手の話である。小学校4年生からはじめた柔道が好きになり、目標をもち、一生懸命練習に打ち込み、柔道日本一の栄冠を手にする。しかし、次の大会では、「自分は強い」という過信から、決勝で敗れてしまう。試合後の監督の言葉で自分の試合に臨む姿勢を反省し、それから今まで以上に誰の話にも素直に耳を傾け、練習に取り組んだ。その一敗が現役時代最後の負けになり、その後203連勝という大記録を樹立したという実話である。山下選手の心の動きを考え、謙虚な心で誰の言葉もしっかり受け止めていこうとすることについて考えることができる教材である。</p> <p>本教材を活用した授業においては、山下選手と自分を重ね、監督からきつく叱られたときの気持ちについて中心的な発問として考えることを通して、児童の多様な価値観を引き出したい。さらに、謙虚で寛容な心をもつことの大切さについて考え、過信せず、謙虚な心を持ち、誰に対しても素直に広い心で接しようとする心情を育てたい。</p>					

3 指導に当たっての留意点

【導入・終末の工夫】（学習過程の工夫）

- 授業の導入場面では、県出身のメダリストの山下選手について伝えることで、教材をより身近に感じることができるようになる。
- 授業の導入と終末で、同じウェビングを使い、授業の中の児童の気づきが視覚的に分かるようにする。

【発問の工夫】（指導方法の工夫）

- 交流場面では、ワークシートを読み合い、同じ意見や気付かなかった意見には色を塗り、活発な交流につなげる。
- 問い返しを工夫することで、児童のより深い思考につなげるようにする。

【板書の工夫】（構造的な板書）

- ハート図を活用し、2つの意見（素直に聞くことができる心、素直に聞くことができない心）を対比して板書することで、その違いに着目し考えを深めることができるようにする。

4 本時の学習

(1) ねらい

監督からきつく叱られた山下選手の立場に立ち、自分ならどうするか話し合うことを通して、自分を過信せず、謙虚な心を持ち、誰に対しても素直な広い心で接しようとする心情を育てる。

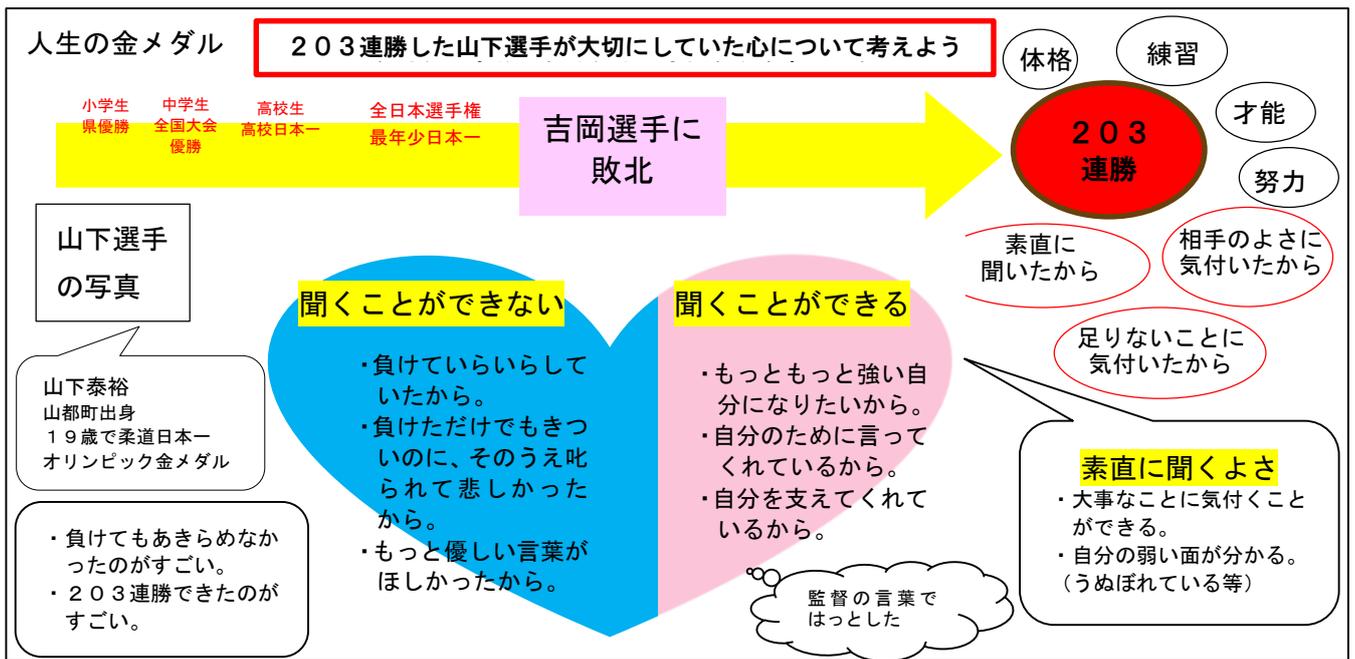
(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される児童の発言)	指導上の留意事項 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分	<p>1 本時の学習課題を知る。</p> <p>(1) 山下選手について知る。 ◇上益城郡に金メダリストがいるなんてすごいなあ。 ◇なぜ203連勝もできたのかな？</p>	<p>○写真とともに山下選手の偉業を簡単に紹介する。 ○「203」という数字を示し、何の数字かを考えさせる。 ○自分たちの生活と重ねさせ、203連勝がいかに難しいことか考えさせ、なぜ山下選手は203連勝できたのか問題意識をもたせる。</p>
展開	30分	<p>【学習課題】 203連勝した山下選手が大切にしていた心について考えよう</p> <p>(2) 山下選手はなぜ203連勝できたのか考える。(1回目)</p>	<p>○ウェビングを活用し、なぜ203連勝できたのかを板書する。</p>
		<p>2 教材を視聴し、山下選手について話し合う。</p> <p>(1) 心に残ったことやみんなで話し合いたいところを伝えましょう。 ◇山下選手は、負けてもあきらめなかったところがすごいと思った。 (2) 決勝戦で負けた山下選手がどんな気持ちでしたか。 ◇とても悔しかった。 ◇負けるはずなのに。</p> <p>【中心発問】</p> <p>(3) 決勝戦での1敗後、山下選手は監督からきつく叱られます。もしあなたが山下選手の立場だったら、監督の注意を素直に聞くことができますか。</p> <p>◇聞くことができない ・負けていらいらしていたから。 ・負けただけでもきついのに、そのうえ叱られて悲しかったから。 ・もっと優しい言葉がほしかったから。 ◇聞くことができる ・注意に納得できたから。 ・もっともっと強い自分になりたいから。 ・自分のために言ってくれているから。 ・自分を支えてくれているから。</p> <p>(4) その後山下選手ははっとします。素直に聞くことのよさって何でしょう。 ◇大事なことに気付くことができる。 ◇自分の弱い面が分かる。(うぬぼれている等) (5) 山下選手はなぜ203連勝できたのか考える。(2回目) ◇監督の言葉を素直に受け止めたから。 ◇自分の足りない面に気付いたから。 ◇相手のよさを見つけようと思えたから。</p>	<p>○感想を交流することで、教材の内容を確認したり、問題意識をもたせたりする。(ペアトーク)</p> <p>○発問後、事前アンケート「注意されて素直に聞けなかったことがありますか」の結果と理由を提示することで、自分たちの心には、なかなか素直に聞けないことがあることに気付かせる。</p> <p>○ハート図(デジタル教材)を活用し、自分の考えを示し、学習シートに理由を書かせる。</p> <p>○個々のハート図を全体で共有し、自分の考えと違う友達と意見交換させる。(交流した友達の意見が同じなら○を赤で塗る、自分が思いつかなかった意見なら○を青で塗るようにする。)</p> <p>○意見を交流する際、理由に注目させ、理由を発表する際には、自分の体験と重ねて発言するよう促す。</p> <p>○(2)で板書したウェビングに、違う色のチョークで書き加える。そのことで、本時の考えの深まりが視覚化できるようにする。 ○(3)での板書で出された考えを参考にするよう声かけをする。 ○「もし監督の言葉を素直に受け入れていなかったら、どうなったでしょうか。」と問うことで、素直な心があったからこそ山下選手が成長していったことに気付かせる。</p>
終末	10分	<p>3 自分自身を振り返る。</p> <p>(1) 「今まで」「今日勉強して」「これから」の視点で自分を振り返り考える。 ◇今まで素直にアドバイスを聞けなかったからこれからは自分を伸ばすために素直に相手の話を聞いて、○○が上手になりたい。 (2) 説話をする。</p>	<p>○人の話を素直に聞いてよかったと思うこと、自分を過信して失敗したと思うことについて振り返らせる。(事前アンケートを活用)</p> <p>○自分自身について考えさせる際には、3つの視点の中から選択させ、学習シートに書かせる。</p> <p>○説話について(例) ・スポーツ選手の言葉 ・教師の経験</p>

【評価の視点1】 山下選手と自分を重ね、監督から叱られたときの心情を、多面的・多角的に考えている。(方法:発言・ワークシート)

【評価の視点2】 自分を過信せず、謙虚な心をもつ大切さについて自分との関わりで考えている。(方法:発言・ワークシート)

【板書計画】



【ICT活用計画】

例：教師による教材提示の計画，ICTを活用した発表，まとめ等による考えの共有の計画等

- ・導入で山下選手の画像等を提示する。
- ・教材提示において，電子黒板を使ってデジタル教科書や，DVD版「くまもとの心」を活用する。
- ・中心的な発問でタブレット（ハート図）を活用する。 ※東京書籍「心のメーター」等を活用